

2005年1月27日

報道関係各位

ノバルティス ファーマ株式会社
ノバルティス地域医療賞委員会

第12回ノバルティス地域医療賞受賞者決定

昨年12月2日に行われましたノバルティス地域医療賞委員会におきまして「第12回ノバルティス地域医療賞」の受賞者5名が下記のとおり決定しました。受賞者には、1月27日東京のホテルオークラにおいて行われた贈呈式で、表彰状と記念楯、副賞として100万円が贈呈されました。

この賞は、1993年に、住民に密着して医療活動に従事し、優れた功績をあげ、地域住民の保健衛生の向上のために著しく貢献された、日本医師会会員の方を顕彰することを目的に設立されたものです。

記

<第12回ノバルティス地域医療賞 受賞者> 五十音順・敬称略

地域	受賞者	年齢	性別	功績タイトル
兵庫県明石市	あねざき たけお 姉崎 起夫	73歳	男性	市医師会役員としての医師会事業への取り組み
神奈川県横浜市	さいき てるこ 佐伯 輝子	75歳	女性	地域住民の信頼が厚い「女赤ひげ先生」
岡山県倉敷市	さとう ひろし 佐藤 博	75歳	男性	地域の医療・保健・福祉分野の充実への強力な指導力の発揮
島根県雲南市	やまね しげる 山根 林	77歳	男性	親子三代の地域に根付いた医療
秋田県秋田市	よしもと みち 吉本 ミチ	90歳	女性	女性医師として戦前から現代まで長年にわたる地域医療への貢献

以上

- 添付資料：「第12回ノバルティス地域医療賞」受賞者の略歴と功績
ノバルティス地域医療賞の経緯
ノバルティス地域医療賞の規定
ノバルティス地域医療賞委員会委員
第1回～11回受賞者一覧

あねざき たけお

姉崎 起夫 (73歳)

(昭和31年 神戸医科大学卒業 兵庫県医師会)

[功績]

昭和41年に明石市に開業以来、地域住民の疾病予防に専念する傍ら、保健所・市行政の委員会委員として公衆衛生思想の普及啓発と事業の進展に寄与した。また、昭和49年4月に市医師会役員に就任以来、医師会事業に尽力するとともに、要援護者保健医療福祉システム及び小地域助け合いネットワーク化の推進に中心的役割を果たした。氏は医師会員への徹底した周知と実践により、当システムを通して地域の保健福祉レベルを向上させ、市民が安全で安心して住める健康福祉の社会づくりに貢献した。このように地域に健康福祉レベルの向上とシステムの機能が十分に発揮され、阪神淡路大震災後の避難所仮設住宅への声かけを目的とした地域ケアネットシステムがスムーズに導入され、被災者の生活の質の向上が図られた等、当システムが稼働発展する中での氏の功績は大である。

[現職]

姉崎外科医院院長、兵庫県社会保険診療報酬支払基金専任審査員、明石市医師会顧問

さいき てるこ

佐伯 輝子 (75歳)

(昭和32年 東邦大学医学部卒業 神奈川県医師会)

[功績]

横浜市中区寿地区に、昭和54年7月に寿町勤労者福祉協会診療所が開設されて以来、自身の医院運営をやり繰りして日雇労働者を主とする住民の治療・健康管理・地区の医療福祉の向上に貢献し、「女赤ひげ先生」として地域住民に慕われ信頼も厚い。診療所は週3回午後の診療で開始したが、当初は酒に酔って訪れたり暴れる患者もいた。保険医療が前提だが、社会保険未加入の上、治療費を持合せない患者のため医療費の貸付による「特別診療」を実施すると患者は増加し、終日診療を望む声が増え、昭和57年4月から週5日、平成15年からは午前診療を開始し体制を充実させた。また近年、結核患者の増加が問題視され、平成12年から国立病院機構横浜南病院と連携し診療所を拠点としたDOTS(直接監視下による短期化学療法)事業を実施し、結核の撲滅にも尽力している。

[現職]

(財)寿町勤労者福祉協会診療所所長、佐伯診療所院長

さとう ひろし

佐藤 博 (75歳)

(昭和25年 日本医科大学附属医学専門部卒業 岡山県医師会)

[功績]

昭和34年の開院以来、倉敷医師会・倉敷市連合医師会の役員を歴任し、地域医療に貢献するとともに以下の事業を率先垂範し中心的指導的役割を果たした。昭和57年、水島・旧倉敷地区の在宅輪番制の夜間救急医療体制を発展させ倉敷市保健医療センターの設立に寄与した。

昭和62年、全国に先駆けFAXネットワークの構築・運用を主導し医療情勢システムの発展に貢献した。倉敷看護専門学校設立・運営に尽力し地域社会に貢献しうる人材を育成した。

旧厚生省の「訪問看護等在宅ケア総合推進モデル事業」の委託を受け、倉敷訪問看護サービスセンターの開設に寄与した後も各地のセンター設立・運営に貢献した。倉敷市の大気汚染公害補償制度の定着に尽力し、水島産業医学研究会の設立に寄与した。

[現職]

佐藤医院院長、岡山県医師会代議員、倉敷医師会顧問、倉敷市保健医療センター理事、倉敷市公害保健福祉事業運営協議会委員、倉敷市訪問看護事業運営委員会委員長、倉敷市訪問看護事業専門委員会委員長

やまね しげる

山根 林 (77歳)

(昭和30年 奈良県立医科大学卒業 島根県医師会)

[功績]

昭和34年に山根医院三代目として継承開業以来、その温厚な人柄で献身的に地域に密着した医療活動を展開し、かかりつけ医としての信頼が厚く地域住民に感謝されている。開業当初は病院・診療所が今ほど多くなく多忙な日々であった。昭和46年の豪雪時に往診依頼があり、途中雪崩の危険がある箇所を消防署から四輪駆動車を出してもらい途中からは歩いて患家にたどり着いた等、体を張った活動もあった。また、祖父の代から三代百年にわたり学校医として地元・近隣で幼児から高校生までの成長を見守ってきた。島根県は高齢化が進み、平成4年から介護施設建設を準備し当初から施設の必要性を理解し、その建設・開設に尽力、理事長・嘱託医として常に奉仕の心で施設入所者の健康維持向上のために粉骨砕身努めた。

[現職]

山根医院院長、大原郡医師会顧問

よしもと みち

吉本 ミチ (90歳)

(昭和11年 東京女子医学専門学校卒業 秋田県医師会)

[功績]

昭和14年に漁村と農村が混在し多様な疾病を有する地域に開業、唯一の眼科専門医として近隣町村を含む広範囲で、日夜地域住民の健康管理・疾病予防に尽力している。特に戦前・戦後は、トラホーム蔓延に対する苦心惨憺たる治療から日常生活での予防・啓発に注力した。また、昭和15年から56年間、延べ30数校の校医として児童・生徒・教職員の健康管理・疾病予防に貢献した。女性医師が少なく封建的意識が強かった当地で家庭と仕事を両立させ、女性医師の模範として今日まで「女性医師の会」をリードしている。現在もなお現役で診療に携り、多くの患者や家族、関係者の厚い信頼を得ている。また、日本医師会生涯教育講座に参加するなど、「生涯学習の姿勢」を率先垂範し若い医師の尊敬を集めている。

[現職]

医療法人吉本医院理事長

ノバルティス地域医療賞の経緯

1993年、当時の日本チバガイギー株式会社は、日本医師会の協力を得て、Ciba 地域医療賞委員会（現：ノバルティス地域医療賞委員会）を設立し、地域医療に貢献されている日本医師会会員を顕彰する制度が発足いたしました。

この制度は、住民に密着して医療活動に従事し、優れた功績をあげ、地域住民の保健衛生の向上のために著しく貢献された医師会会員の方を顕彰するもので、名称は「Ciba 地域医療賞」とされました。

1994年に第1回の贈呈式を開催し、その後、毎年1回、5名ずつの先生方が受賞されています。

なお、1997年4月に日本チバガイギー株式会社とサンド薬品株式会社が統合し、ノバルティス ファーマ株式会社となりましたので、日本医師会のご理解のもと「ノバルティス地域医療賞」と名称を改めました。

本賞の運営および受賞者の選考については、別紙のとおり、日本医師会の代表、学識経験者、ノバルティス ファーマ株式会社の代表者で構成されるノバルティス地域医療賞委員会が行います。

本賞の概要につきましては、別紙の「ノバルティス地域医療賞」の規定をご参照ください。

「ノバルティス地域医療賞」の規定

- < 目的 > 全国各地で住民に密着して医療活動に従事し、優れた功績をあげ、地域住民の保健衛生の向上に著しく貢献された、日本医師会の方を表彰する。
- < 主催 > ノバルティス地域医療賞委員会
- < 後援 > 社団法人 日本医師会
- < 表彰 > 日本医師会長、または各都道府県医師会長から推薦された応募者を「ノバルティス地域医療賞委員会」（日本医師会の代表、学識経験者、ノバルティス ファーマ株式会社の代表で構成）にて受賞者を選考し、毎年一回表彰する。
受賞者には賞状と記念盾及び副賞 100 万円を贈呈する。

- < 応募要領 > (1) 対象者
日本国内を主たる活動地とする日本医師会員とする。
(グループ活動は除く)
- (2) 推薦
原則として、1 推薦者から 1 名とする。
- (3) 応募方法
推薦者は所定の用紙にて推薦し、毎年 10 月 31 日迄にノバルティス地域医療賞委員会事務局に提出する。
- (4) 事務局
「ノバルティス地域医療賞委員会事務局」

〒106 - 8618

東京都港区西麻布 4 丁目 17 番 30 号

ノバルティス ファーマ株式会社

渉外部内

電 話：03 - 3797 - 8519

F A X：03 - 3797 - 4497

ノバルティス地域医療賞委員会委員

学識経験者（1名）

森岡 恭彦 日本赤十字社医療センター 名誉院長
東京大学 名誉教授

社団法人 日本医師会（5名）

委員長

植松 治雄 会長

櫻井 秀也 副会長

橋本 信也 常任理事

田島 知行 常任理事

野中 博 常任理事

ノバルティスグループ 日本事業統括責任者

ノバルティス ファーマ株式会社 取締役副会長（1名）

大橋 勇郎

ノバルティス地域医療賞 これまでの受賞者

(五十音順・敬称略)

第 1 回	神奈川県 小川 武満 静岡県 北村 廉作 宮崎県 清永 恕 大分県 杉田 肇 大阪府 橋本 博	第 7 回	佐賀県 内藤 光二 愛媛県 奈良 邦夫 東京都 萩原 謙二 広島県 平田 敏夫 愛知県 森 澄
第 2 回	東京都 塚部 祥生 島根県 花田 カズ 京都府 原 治 宮城県 堀田 廣行 茨城県 室生 勝	第 8 回	高知県 島田 作 徳島県 中山 壽孝 沖縄県 長田 紀春 神奈川県 福島 弘毅 長崎県 牟田 博夫
第 3 回	群馬県 織田 敏郎 岐阜県 黒岩 翠 岡山県 福島 功 愛媛県 藤原 寿則 大阪府 保坂 智子	第 9 回	鹿児島県 有村 周雄 和歌山県 浦 淳市 岐阜県 諏訪 求仁雄 埼玉県 高橋 康 秋田県 福永 光子
第 4 回	京都府 伊藤 盛夫 宮城県 庄司 眞 埼玉県 鈴木 邦明 東京都 徳光 裕子 鹿児島県 牧角 仙丞	第 10 回	東京都 浅川 春巳 兵庫県 飯田 英夫 埼玉県 佐藤 幸子 北海道 柳内 統 沖縄県 吉田 春子 < 10 周年記念賞 > 鳥取県 松田 泰彦
第 5 回	宮城県 斎藤 一夫 群馬県 角田 勤 静岡県 三輪 淳 神奈川県 山口 肇久 岐阜県 渡辺 茂樹	第 11 回	埼玉県 上原 正夫 鹿児島県 瀬戸上 健二郎 山口県 竹内 清海 三重県 町井 二作 長崎県 松村 哲男
第 6 回	香川県 浮田 春雄 宮城県 大井 康 福岡県 清沢 博 沖縄県 金城 和男 鳥取県 齋藤 五彦		